

社会人基礎力の評価項目を使った 実践的なキャリア教育の検討

国奥 真奈美・上 憲治・高林 靖幸

帝京短期大学 生活科学科

【抄録】

本研究の目的は、帝京短期大学の学生が「生活文化演習Ⅰ・Ⅱ」の活動について社会人基礎力の評価項目に沿ったリフレクションとプレゼンテーションを行うことにより、どのような影響があるかを検証し、実践的なキャリア教育の効果について検討を行うことである。授業終了後にアンケート調査を行った結果、学生自身が社会人基礎力の項目に経験を照らし合わせながらリフレクションを行っている様子がみられ、一定の実践教育の効果があったと考えられる。

【キーワード】社会人基礎力、キャリア教育、サービス・ラーニング、プレゼンテーション

I. はじめに

社会や経済環境に伴う就業構造の変化により、大学・短期大学のキャリア教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に向けた指導体制の整備が求められている。平成24年8月の答申において、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができないと指摘されている（中央教育審議会、2012）。国際的な競争力の観点から考えると、今後求められる能力は、自ら課題を設定しながら粘り強く向き合う姿勢や、主体的に考える力である。ゆえに高等教育機関である大学においても「サービス・ラーニング」が実施され、学生のスキルを高めていく施策が行われている。サービス・ラーニングとは、「社会の要請に対応した社会貢献活動に学生が実際に参加することを通じて、体験的に学習するとともに、社会に対する責任感等を養う教育方法」とされており、大学教育と社会貢献活動との融合を目指したものとされている。（中央教育審議会、2002）社会では多様な背景や価値観を持った人々と協働し、プロジェクトを遂行していく能力が求められ（有川、2018）大学における実践教育のあり方についての検討が求められている。

経済産業省が掲げる「人生100年時代の社会人基礎力」は、「これまで以上に長くなる個人の

企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義され、3つの能力/12の能力要素から構成されている。この能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが必要とされている（経済産業省中小企業庁、2018）。

このような高等教育機関が求められているキャリア教育の実践の場として、帝京短期大学・生活文化コースの「生活文化演習」科目では、地域の清掃活動、お花の美化活動、子ども食堂や地域コミュニティカフェ、お祭りイベントなど幅広く地域貢献活動に参加する演習を行っている。そうした活動を通して学生は、社会の一員として自立性や創造性を体験的に学ぶことを成果としている。2021年度では、実施した活動を社会人基礎力の項目に沿って振り返り、「生活文化演習社会人基礎力のプレゼンテーション大会」を実施した。

そこで本研究の目的は、学生が実践的な活動について社会人基礎力の評価項目に沿ったリフレクションとプレゼンテーションを行うことにより、どのような影響があるかを検証し、実践的なキャリア教育の効果について検討することとする。

II. 方法

1. 調査対象者

本研究の調査対象は帝京短期大学（以下、短大と略す）生活科学科生活文化コースの2年生46名とした。

2. 調査の概要

2年生後期の「生活文化演習Ⅱ」の授業において、社会人基礎力の教示を行い、活動成果について各テーマに沿って1名～3名の単独もしくはグループにて発表を行った。最終発表までに中間発表を行い、グループごとに教員による学

Table 1. プレゼンテーション発表に用いた評価基準

番号	評価基準	点数
1	◎時間が適切であったか。 3点:5分～8分未満に収められている 2点:8分を超えていた 1点:5分未満	3 2 1
2	◎社会人基礎力「前に踏み出す力」の3つの要素の分析 3点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを具体的に考え、今後の改善策を考えることができていた。 2点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを考えることができていた。 1点:自分たちの活動の中で、「前に踏み出す力」について振り返りが十分にできていない。	3 2 1
3	◎社会人基礎力「考え抜く力」の3つの要素の分析 3点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを具体的に考え、今後の改善策を考えることができていた。 2点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを考えることができていた。 1点:自分たちの活動の中で、「考え抜く力」について振り返りが十分にできていない。	3 2 1
4	◎社会人基礎力「チームで働く力」の6つの要素の分析 3点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを具体的に考え、今後の改善策を考えることができていた。 2点:自分たちの活動の中で「発揮できた」「発揮できなかった」ことを考えることができていた。 1点:自分たちの活動の中で、「チームで働く力」について振り返りが十分にできていない。	3 2 1
5	◎プレゼンテーションの資料 3点:工夫があり、全体的に色使い、文字の大きさ、バランス(文字が多すぎない)などが全てよい 2点:全体的にまあまあである 1点:資料枚数が少なく、工夫もない	3 2 1
6	◎適切な挨拶が行えているか。 3点:始めと終わりの挨拶が全員でしっかりと行い、表情や姿勢など好感が持てる。 2点:始めと終わりの挨拶では一部のみで、表情や姿勢などしっかりとしていない。 1点:始めと終わりの挨拶がどちらかしかなく、適当にしているとしか思えない。	3 2 1
7	◎アイコンタクト 3点:メモや原稿をまったく見ない。メンバーに対してまんべんなくアイコンタクトがとれている。 2点:メモや原稿はときどき見るが、アイコンタクトは数えるくらいしかない。 1点:メモや原稿ばかり見て、アイコンタクトがない。	3 2 1
9	◎姿勢とボディラングエッジ 3点:姿勢がしっかりしていて、崩れない。ボディラングエッジも必要な時に使える。 2点:姿勢がときどき左右に揺れたりする。ボディラングエッジが不必要な時に出る。 1点:不愉快と感じられる立ち方をしている。	3 2 1
9	◎話すスピード 3点:聞き取りやすい適度なスピードである。 2点:ときどき、早口になる部分があるが、おおむねスピードはよい。 1点:極端に速いか遅いかなど、聞き続けることが不快である。	3 2 1
10	◎全体の印象 3点:構成、話し方、態度や表情など、とてもよい。 2点:構成はしっかりとしているが、全体的にもう少し態度姿勢などしっかりとしている方がよい。 1点:まったくよくない	3 2 1

合計得点

/30

学籍番号:

氏名

生指導が行える機会を数回設けた。また発表は1年次の必修科目である「プレゼンテーションの成功」の授業で学んだ内容をふまえて行うように指導を行った。最終発表では学生および教員による評価を行い、総合得点により優秀なグループに対して表彰を行った。なお、評価基準は「プ

レゼンテーションの成功」の授業で使われる基準をアレンジした。

学生の意識調査として、社会で求められる能力について学生がどのように捉えているかを探るために、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」（経済産業省，2006）および福岡・孫・大月

Table 2. 調査に用いた質問項目

	質問項目	選択肢
Q1	会社で仕事をする際、最も重要視されると考えられる能力要素を上位3つまで選んでください。	① 人柄（明るさ・素直さ等） ② 独創性③ 語学力④ 業界に関する専門知識⑤ 主体性 ⑥ 課題発見力 ⑦ 粘り強さ⑧ チームワーク力⑨ 論理的思考力⑩ ビジネスマナー⑪ 一般常識⑫ 一般教養⑬ コミュニケーション力 ⑭ その他
Q2	自分が不足していると思う能力要素を上位3つまで選んでください。	① 人柄（明るさ・素直さ等） ② 独創性③ 語学力④ 業界に関する専門知識⑤ 主体性 ⑥ 課題発見力 ⑦ 粘り強さ⑧ チームワーク力⑨ 論理的思考力⑩ ビジネスマナー⑪ 一般常識⑫ 一般教養⑬ コミュニケーション力 ⑭ その他
Q3	自分が既に身につけていると思う能力要素を上位3つまで選んでください。	① 人柄（明るさ・素直さ等） ② 独創性③ 語学力④ 業界に関する専門知識⑤ 主体性 ⑥ 課題発見力 ⑦ 粘り強さ⑧ チームワーク力⑨ 論理的思考力⑩ ビジネスマナー⑪ 一般常識⑫ 一般教養⑬ コミュニケーション力 ⑭ その他
Q4	「社会人基礎力」の3つの能力のうち、最も重要だと考える能力を1つ選んでください。	①前に踏み出す力（アクション）：一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力②考え抜く力（シンキング）：疑問を持ち、考え抜く力③チームで働く力（チームワーク）：多様な人々とともに、目標に向けて協力する力
Q5	「社会人基礎力」の12の能力要素のうち、重要だと考える能力要素を上位3つまで選んでください。	① 主体性② 働きかけ力③ 実行力④ 課題発見力⑤ 計画力⑥ 創造力 ⑦ 発信力⑧ 傾聴力 ⑨ 柔軟性⑩ 状況把握力⑪ 規律性 ⑫ ストレスコントロール力
Q6	社会人基礎力の「前に踏み出す力」を意識しながらプレゼンテーションの準備および実施をすることができましたか。	① 大変そう思う② そう思う③ そう思わない④ 全く思わない
Q7	社会人基礎力の「考え抜く力」を意識しながらプレゼンテーションの準備および実施をすることができましたか。	① 大変そう思う② そう思う③ そう思わない④ 全く思わない
Q8	社会人基礎力の「チームで働く力」を意識しながらプレゼンテーションの準備および実施をすることができましたか。	① 大変そう思う② そう思う③ そう思わない④ 全く思わない
Q9	あなたは今回のプレゼンテーションの準備・実施によって、「社会人基礎力」について理解が進んだと思いますか。	① 大変そう思う② そう思う③ そう思わない④ 全く思わない
Q10	今回のプレゼンテーションの準備や実施をするうえで、よかったと思ったことはどのようなことですか。	(自由記述)

(2020)の指標を参考に、アンケートを作成した。アンケート回答時期は2021年12月中旬から1か月、Microsoft Formsのソフトを使って実施した。回答数は29件であった。

3. 調査の分析

(1) 社会人基礎力に対する項目

まずQ1～Q9までの質問項目により対象者の意識について集計を行った。

(2) 自由記述式の項目

Q10の自由記述式の回答について、内容分析ツールであるKH Coder（製品バージョン3.Beta.6a）をダウンロードし、集計・分析を行った。KH Coderとは、計量テキスト分析またはテキストマイニングなど、日本語テキスト型データを計量的に分析するソフトである。

4. 倫理的配慮

アンケート表のフェースシートには、研究目的、個人を特定してデータを公表しないこと、個人情報の保護について明記した。「アンケートの記入により回答に同意したものとする」という項目を設け、口頭でも説明をしたうえで、学生の承諾をもって実施した。

III 結果

1. アンケート調査の結果

(1) 社会人基礎力に対する項目

社会人基礎力に関するQ1, Q2, Q3質問項目を学生の「社会人観」として比較検討した(Figure1)。Q1の「会社等で仕事をする際、最も重要視されると考えられる能力要素」では、「人

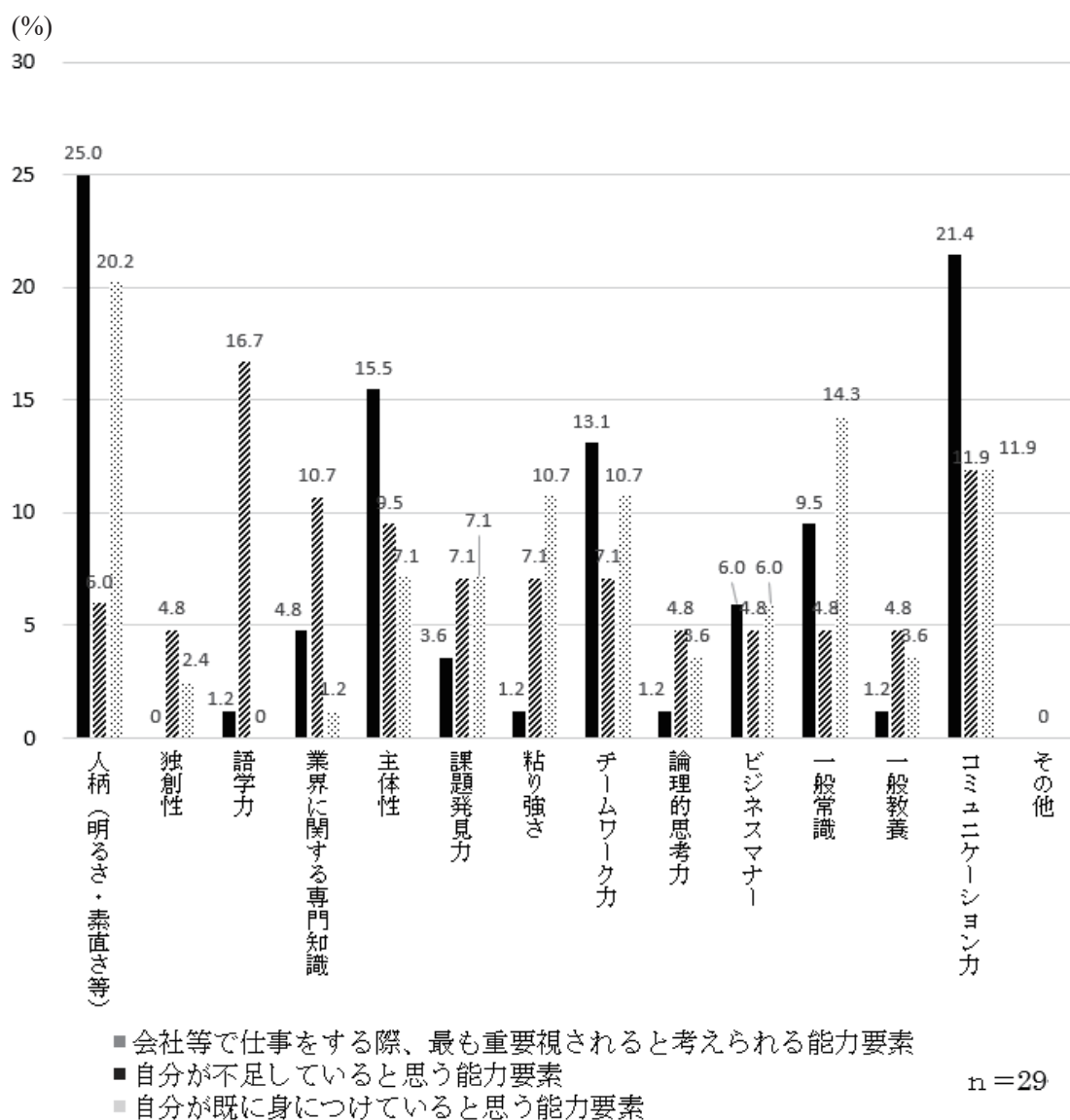


Figure 1. 学生の「社会人観」

柄」や「コミュニケーション力」が高い。Q2の「自分が不足していると思う能力要素」は「語学力」「業界に関する専門知識」「コミュニケーション力」がやや高い。一方、Q1の会社等が重要視していると学生が考えている「人柄」は、Q2の「自分が不足していると思う能力要素」では6.0と低く、またQ3の「自分が既に身につけていると思う能力要素」では「人柄」が高い。このことから会社等で重要視される「人柄」について、学生自身は身につけているととらえている傾向

がみられた。経済産業省（2010）の調査においても、企業および学生ともに「人柄（明るさや素直さ等）」「コミュニケーション力」を必要な能力要素としており、学生自身が既に身につけていると思う能力要素において「人柄（明るさや素直さ等）」が高く出ている調査結果がある。本研究においても同様の結果であるため、全般的に学生は「人柄」について自分自身を高く評価する傾向が見られた。

「主体性」「コミュニケーション力」などの項

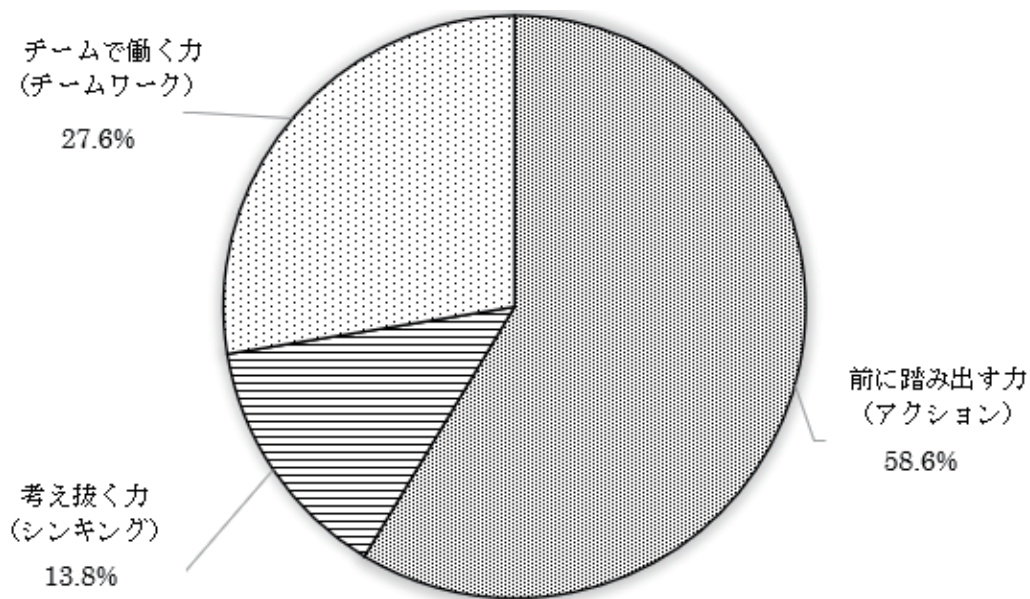


Figure 2. 3つの能力のうち、最も重要だと考える能力

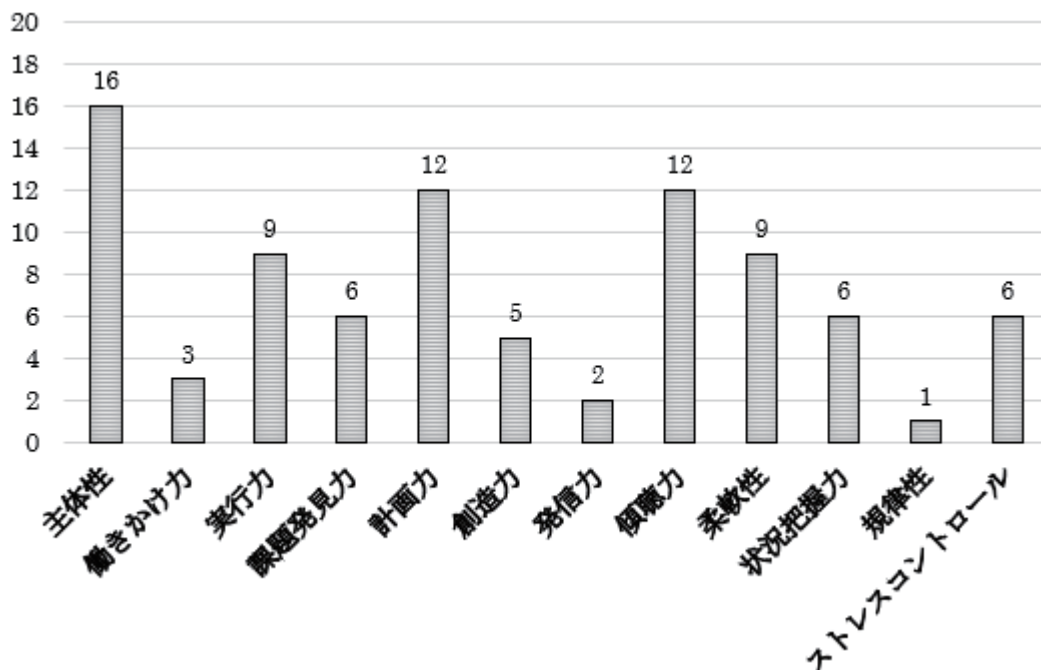


Figure 3. 12の能力要素のうち、重要だと考える能力

目は、「会社等で仕事をする際、最も重要視されると考えられる能力要素」として高いが「自分が不足していると思う能力要素」「自分が既に身につけていると思う能力要素」では低いため、学生が課題として捉えていると考えられた。

Figure 2 で示されている「3つの能力のうち、最も重要だと考える能力」では「前に踏み出す力」が58.6%と高い。また Figure 3 の「12の能力要素のうち、重要だと考える能力要素」では「主体性」が最も高い値を示している。学生は社会で求められている能力として「主体性」など積極的な姿勢であると捉えていた。

Figure 4 では、学生自身が自らの成果として3つの能力を発揮しながらプレゼンテーションの準備・実施できたかどうかについて、Q6～Q9までの質問に対して「大変そう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」の4件法にて回答してもらった。大部分が「大変そう思う」「そう思う」と回答しており、学生は社会人基礎力の3つの能力を発揮し、自らの成果として捉えていた。

(2) 自由記述式の項目

自由記述から得られたデータを KH Coder を用いて前処理を実行し、文章の集計を行ったところ、33の段落、43の文を確認した。分析対象ファイルに含まれる全ての語の延べ数（総抽出語数）は1088、何種類の語が含まれているかを

表す数（異なり語数）は279であった。そのうち頻出語上位100語までのリストと出現頻度をまとめたのが Table 7 である。

最も多く出現した言葉は「自分」であり、次に「発表」「プレゼンテーション」と続いたが、全体的に出現回数1や2が多かった。

「自分」という言葉を使用している例として「自分達」「自分が取り組んだ」などの言葉として使用されており、学生が自発的に取り組んだ様子の記述が多かった。また「発表」「プレゼンテーション」の言葉から、プレゼンテーションの成果を実感する記述が多くみられ、次に「担当」「チーム」などの言葉からグループで主体的に働きかける力が必要であると捉える記述が見られた。以下、「自分」「発表」「プレゼンテーション」「チーム」に関する語について代表的な記述文章を挙げた。

＜「自分」に関する語＞

- 自分のこれまでの経験を踏まえた上で、それを社会人基礎力に結びつけて考えていくことで、その経験が自分の成長に大きくつながっていたことに改めて気づくことができた点がよかった。他に、私たちが原稿作成で悩んでいた際に、先生方がアドバイスやサポートをしてくださったことで、何度も修正を重ねながら、自分の中で一番良い

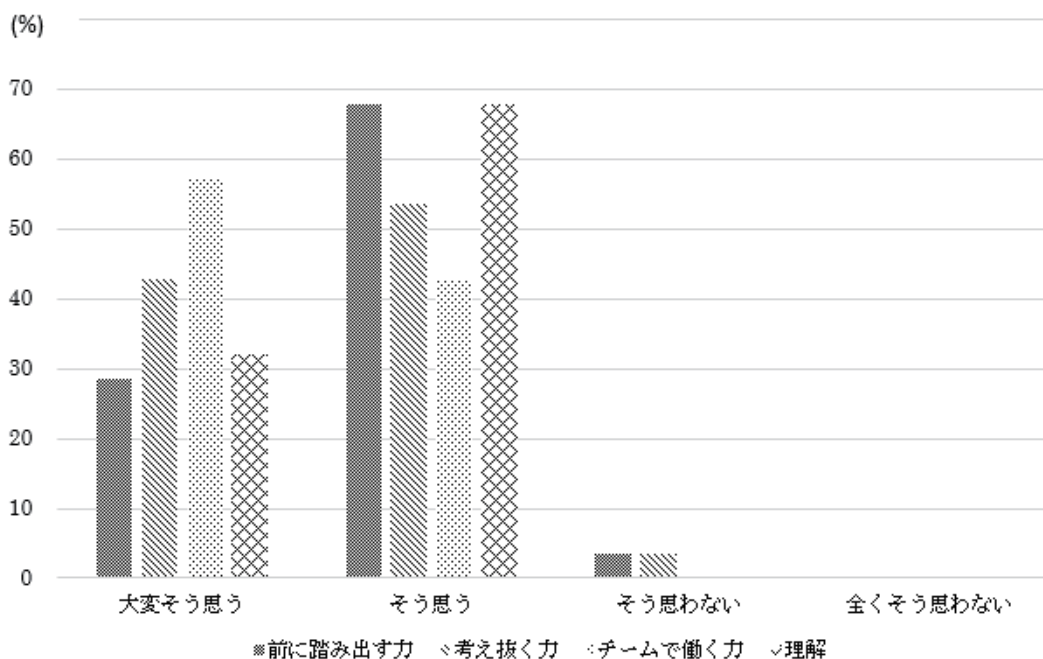


Figure 4. 3つの能力を発揮して準備・実施した結果

- プレゼンテーションができたことも良かったです。
- よりよいプレゼンにしようとメンバーとたくさん話し合えたことが1番良かった。準備で「自分はこういうのが良いと思う」、「これはどう？」などお互いに自分の考えについて意見を求められたことがたくさんできていたと思うし、それが大切なことなんだと思った。また、意見を求め合うだけではなく、相手が得意なことは頼りすぎずに頼ることも必要なことだということもわかったのがよかった。本番ではお互いに緊張してたけど、その緊張を少しだけでも楽しめていたと思うので、良かった。
 - 基本自分で考え発表でき、2年間を振り返るきっかけにもなったことがよかったです

- 自分達の発表だけでなく他のチームの発表を聞いた事で様々な考えや視点に気付くことが出来た。
- 自分に足りない能力を発見することができたことです。
- 実際に自分に足りないところも再認識出来たので良かったと思います
- 自分の能力について振り返りができたこと

＜「発表」「プレゼンテーション」に関する語＞

- 私はプレゼンテーションの準備に力を入れることができたと思います。PowerPoint 担当と文章制作担当というように担当を割り振るようにしたので、できる人に全ての仕事を押し付けることなくみんなに役割を与えることができたので役割分担係として上

Table 3. 調査アンケート記述部分の頻出語リストと頻出頻度

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
自分	14	尊重	2	アドバイス	1
発表	8	発見	2	サポート	1
プレゼンテーション	7	分担	2	意識	1
担当	6	スムーズ	2	一緒	1
チーム	6	柔軟	2	解決	1
社会	5	たくさん	2	計画	1
プレゼン	4	全て	2	実行	1
意見	4	アイデア	1	実施	1
役割	4	イラスト	1	修正	1
経験	3	トラブル	1	成功	1
お互い	3	ハプニング	1	成長	1
インターンシップ	3	メンバー	1	整理	1
チームワーク	3	一つ	1	説明	1
基礎	3	過程	1	想像	1
考え	3	基本	1	達成	1
経験	3	機会	1	認識	1
必要	3	原稿	1	納得	1
PowerPoint	3	個々	1	練習	1
グループ	2	考え方	1	話し合い	1
リーダー	2	視点	1	大事	1
課題	2	資料	1	大切	1
能力	2	柔軟性	1	端的	1
文章	2	情報	1	得意	1
協調	2	心得	1	優秀	1
協力	2	先生	1	様々	1
緊張	2	全員	1	それぞれ	1
行動	2	相手	1	一番	1
作成	2	題材	1	各々	1
仕事	2	内容	1	結果	1
指示	2	年間	1	今回	1
指導	2	本番	1	前	1
製作	2	流れ	1	パワー	1

手く指導出来ました。

- ・ プレゼンテーションの内容を作っていく過程でも社会人基礎力は必要であると感じ、それを意識してプレゼンテーションを作っていた。
- ・ 柔軟力や課題発見力が足りないと感じることがいくつかありました発表の時も、トラブルに対して柔軟性が必要だと思うところもありました。

〈「チーム」に関する語〉

- ・ チームのみんなで一つのことについて考え、協調性を身につけることができた。
- ・ 3人チームで発表しましたが、お互いがお互いの意見を尊重できていてよかったです。皆それぞれ題材にしたいことが一緒だったため、全員が納得する形でまとめられたのでよかったです。
- ・ チームワークでしっかり話し合いながらも個々の意見も尊重しながらプレゼンの資料ができたのが良かったと思います。

IV 考察

本研究の目的は、学生が実践的な活動について社会人基礎力の評価項目に沿ったリフレクションとプレゼンテーションを行うことにより、どのような影響があるかを検証し、実践的なキャリア教育の効果について検討を行うことであった。

結果として社会人基礎力の項目を意識したりリフレクションを行いながら発表までまとめあげることにより、学生が自らの活動の意義や成果として内省するなど一定の効果がみられた。特に自由記述のアンケート調査からは、学生が社会人基礎力の項目に沿って意識しながらプレゼンテーションの準備に取り組むなかで活動の意義やチームワークの重要性を実感するなど、自らの成果として捉えていると考えられた。学生は「主体性」「コミュニケーション力」などが社会で求められているスキルであると認識しながらも一方では自身の課題として捉えており、活動によりそうした能力を高めることができたと思われていると考えられた。

学生の自主性をいかに引き出すかという教育課題はこれまでも指摘されているが、活動を高

等教育機関にて用意するだけでは、学生にとって成果として統合されるかどうかは難しい。しかし学生に社会で求められている能力を理解させながら活動を促し、かつリフレクションの機会を提供することにより、実践的なキャリア教育の成果へとつなげていく可能性はある。

今回の研究においては課題もみえてきた。「社会人基礎力」概念の批判的検討もなされており(尾田, 2022), こうした指標の使い方には十分な留意が必要である。また演習活動がどのように社会で求められている能力につながるのかを考えられるリフレクションの機会をいかに設けるかが重要である。そのためには活動前の事前の教示が必要であり、最終的な成果発表までの道筋を示すことにより学生の活動意識を変えられる可能性はある。また経過観察と全体のカリキュラムが効果となっているかどうかの検証が継続的に必要であろう。

なお、今回の論文に関して開示すべき利益相反状態はない。

【文献】

- 1) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」平成24年8月28日
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afiedfile/2012/10/04/1325048_1.pdf (2022年12月9日閲覧)
- 2) 中央教育審議会「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について(答申)」平成14年7月29日
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1287510.htm (2022年12月9日閲覧)
- 3) 有川かおり「イベントの企画を通じた大学生の成長に関する検討—子ども対象キャリア教育イベント企画学生の振り返りレポートに対するテキストマイニング分析を用いて」2018
- 4) 経済産業省中小企業庁、「我が国産業における人材力強化に向けた研究会 報告書」平成30年3月
https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_1.pdf (2022年12月9日閲覧)

覧)

- 5) 経済産業省 (2006) 社会人基礎力
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
(2022年12月9日閲覧)
- 6) 福岡賢二・孫一・大月一弘「留学生を対象とした就職支援のための『社会人観』の把握」日本教育工学会論文誌 44 (Suppl.) 1-4, 2020
- 7) 経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」平成 22 年 6 月
<https://selectra.jp/sites/selectra.jp/files/pdf/201006daigakuseinosyakajinkannohaakutonintido.pdf>
(2022年12月9日閲覧)
- 8) 尾田基「経済産業省『社会人基礎力』概念の批判的検討」國學院大學教育開発推進機構紀要第 13 号, 13 1-13, 2022-03

Review on practical career education using evaluation items for fundamental competencies for working persons

Manami KUNIOKU · Kenji KAMI · Yasuyuki TAKABAYASHI

Department of Living Science, Teikyo Junior College

【abstract】

The purpose of this research is to examine the results of Service-Learning through a presentation competition held by students of Teikyo Junior College regarding the activity results of "Life Culture Seminar I and II" using evaluation items for fundamental competencies for working persons is to do. As a result of conducting a questionnaire survey after the class, it was found that they looked back on their experiences while comparing them with the basic skills of working adults, and it is thought that there was a certain effect of practical education.

【Key words】 Fundamental competencies for working persons, Career education, Service-Learning, Presentation